上智大学英語学科同窓会　会報

◀S·E·L·D·A·A▶ No.31

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町 7 - 1
上智大学英語学科事務室気付

平成12年 11月11日発行

Sophia English Language Department Alumni Association

A Future for the English Department

英語学科教授　Michael Milward

Universities in Japan face a crisis. They expanded to fill the needs after World War II and the subsequent baby-boom. Now that the number of children is dropping, universities have too many places to fill. Some universities, faculties or departments will go out of business and others shrink. Even state universities are affected. What will happen to Sophia University and its Department of English Language and Studies?

Curiously, it was the state universities and Big Brother in government that made the first anxious moves. For more than ten years now, they have been fiddling with entrance procedures. The Center Examination and its predecessors tend to put all schools in one hierarchy. Students all over the country compete for high scores in the same tests. Schools that use the Center's services eventually must cater to the same uniformity, distinguished only by the level of students they can catch. When all schools are painted the same bureaucratic gray, public money should give public universities the extra attraction they need to survive. Second round applications (後期日程) and state university alliances reflect the same nervousness. They need to eliminate as many rivals as possible before their de-nationalization leads to any cut in national funding.

For many years to come, Sophia will not be able to compete on price, even if our graduates became as generous in their support as those of Keio. We must compete on character and quality; we must aim to offer a different product and measure our quality by a different yardstick. Fortunately, Sophia has a tradition on both points: its Christian humanism and its international exposure. At a time when a number of seventeen-year-olds have revealed a terrifying dehumanization in education, our departments of psychology and education have much to offer for re-humanization. Journalism was an early sign of Sophia's international horizon, but foreign languages and comparative culture are its nitty-gritty and its grand spirit.

If Japan is itself to survive in the age of the world-wide web, it needs citizens at home in the world outside. It needs people who can see beyond the narrow island legalism of Tokyo University and the Liberal Democratic Party. It needs people who can see human values even where econometrics cannot. It needs people at home with the languages and value systems of the world and communicate through the motion, sounds and colors of tomorrow's electronic wizardry. This is the territory of the Faculty of Foreign Languages and Studies, but especially of those in English, as English shows every sign of remaining dominant for another generation yet. This department has a great task, a great future, if only we rise to it.

●2001年度SELDAA総会&懇親会のお知らせ
2001年度定例総会を、2001年5月27日(日)開催のオールソフィアンの集いにあわせて行なう予定です。なお、詳細は決まり次第、別途お知らせいたします。

●SELDAAホームページ
http://www2u.biglobe.ne.jp/~seldaa/

2つの入学式

吉澤　万知子(昭和50年卒)

2枚の写真が焼き上がりました。どちらも桜の木の下で微笑む新入生の写真です。1枚は、高校1年生のかわいらしい私の娘。でも、もう1枚は…。今年の4月、我が家には2人の新入生が誕生し、晴れやかなお祝い事が続きました。

もう1枚の写真でニコニコしている私は、今、25年ぶりに、母校上智大学にもどり、大学院言語学専攻言語障害コースで、言語聴覚士（スピーチ･セラピスト）のための勉強をしています。4月には確かにニコニコしていた私ですが、何しろ60単位以上を履修するという超難関コースのため、最近はひきつった顔で学問の世界に片足をつっこんでいます。

私たちの言語障害コースは、言語聴覚士の国家資格認定試験をうけるために必要なカリキュラムとして、言語学や音声学はもとより、心理学、さらに聴覚医学や解剖学などの授業もあり、神経系の構造や機能も学ばなければなりません。そうしたことで、脳梗塞などで失語症になった患者さんたちに対する言語治療から、発達障害をもつこどもたちへのスピーチ・セラピストとしての援助など、幅広い活躍ができるわけです。

私には、自閉症の娘がいて、9年間、地元の小･中学校に通わせました。学校始まって以来の元気ものの学年といわれ、やたら無邪気な同級生に囲まれて、私も小学生･中学生をやり直すつもりで一緒になって遊んだり勉強したりしたものです。娘が無事、中学を卒業した今、今度は自分をリセットしなければ、と強く思っています。私にとって、娘の自閉症という問題は、最大の関心事であり、つきぬことのない探究心をかりたててくれます。そのことを土台に、社会に役立つ自分というものを見つけてみたいのです。

徹夜が続くこともあるハード・スケジュールの毎日ですが、先生方や同期の学生さんたち、そして、娘と一緒に夕食を作って食べてくださるボランティアの学生さんたち、と色々な人たちの助けをかりて何とかやっています。主人も、言語学や音声学のかくれおたくなので、修士論文のかくしだまに期待できるでしょうか？　とにかく、まだまだ、おばさん奮戦記は続きそうです。

“ピアノの会”と私

北川　香里(旧姓 足利)　(平成3年卒)

ピアノは一人で演奏が成立してしまうことが多い楽器のため、ピアニストが複数集まる機会というのは、めったにありません。私も、ひとりピアノ教室にこつこつ通い、周りはちびっこの多い発表会(21年間19回出てきました。クラスメイトのほか、Nissel先生もいらしてくれたことがあります)に出るという生活を続けています。

そんな私のいわば孤独な“ピアニスト活動”に変化が訪れたのは、3年前、転職先の同僚が彼女の新居とピアノのお披露目の会で私にミニリサイタルを開かせてくれてからです。会社の友人達にとても喜んでもらえたことに励まされ、もっと人に聞いてもらう機会を作ることにしました。(余談ですが、この職場で夫とも知り合い、よりよい転職だったともいえます。)

生徒として出る発表会に加え、99年からは、恵比寿ガーデンプレースなどで、ピアノ教師を中心とした有志でジョイントコンサートを行っています。99年7月、私と従姉ふたりきりでのスタートでしたが、見に来ていた従姉の知人が人脈を生かして10月には10組13名でのコンサートとなりました。それからはそこで知り合った誰かしらが声をかけてくれるため、今年3月も恵比寿で、また、5月にはホールを借り切ってのコンサートを開きました。専門に勉強した彼女たちに混じって演奏することは私にとってはハードですが、触発されること大で、自らの演奏の軌道修正にもなるような気がします。

最近はより“頻繁で気楽”に弾く機会もほしくなって、社会人のピアノの会“ファンタジア”に2月から参加しています。職業を問わずピアノが好きという人たちが、毎月一度都内で集まり、思い思いの一曲を弾くという和やかながら充実したよい会です。4月、5月はやや広い会場にほぼ全メンバーが集まり、3時間にわたり熱演を繰り広げました。次回にむけてレパートリーの拡充にも熱が入ります。

こうして、いったん動きはじめてからというもの、芋づる式に演奏と交流の機会が生まれ、今や多忙なピアノライフを送るにいたっています。孤独を嘆いているピアノ好きな方、腕をもてあましている方、コンサートに興味がある方等、おられましたら是非ご連絡下さい。

ファンタジア参加方法
ジョイントコンサート予定
社会人のためのピアノ教室(葛飾区)
お問い合わせは、
tel. 03-3695-8860
平成3年卒　北川 香里 (旧姓 足利) までどうぞ。

卒業生短信

9月中旬までに事務局に届いたお便りを掲載いたします。(本文中では敬称を略しております。ご了承ください。)

■映画製作をしています。
今年は田中麗奈主演の「はつ恋」と森光子、滝沢秀明主演の「川の流れのように」がすでに公開されました。また、8月19日には織田裕二、松嶋菜々子主演で「ホワイトアウト」が公開され、秋には伊藤高史、中村俊介で「ekiden」という作品も上映されます。たま〜に子役も必要です。お子様に役者として可能性を感じられる方がいらっしゃればスイセン(?)してください。

小滝 祥平 (昭和56年卒)

■英語学科を卒業して、公認会計士としてビジネスに携わって10年になります。今、会計の世界ではグローバルスタンダードの流れにあり、どの企業もたいへんな思いをしています。ゆえに私達の業界でも英語は必要不可欠となってきています。
また、企業の海外提携が進むなか、ビジネス用語は英語にしようという会社もあり、私たちも大きな会計事務所は全て海外の大手会計事務所とメンバーファームシップを組んでいるので、英語化の流れのなかにあります。
以心伝心を重んじる日本語よりは指示が明確になる英語の方が、ビジネスには向いていると思うことが多々ある今日この頃、口では「たいへんですよね」と言いつつ、ビジネスの意思伝達手段は全て英語になればいいのにと心の中で思っています。

竹本 辰三 (昭和63年卒)

■関西学院大で比較政治(比較外交)を教えつつ、カナダ研究コーディネーターもしております。本学は、1910年から数十年間カナダ・メソジスト教会が経営に参加したこともあり、カナダ研究の旗振り役をつとめています(将来的には、上智のアメリカ・カナダ研究所のようなものをつくりたいとの野望も秘めていますが)。
また、1999年12月には、構想10年、執筆3年の研究を『カナダ外交政策論の研究』(彩流社)としてまとめました。この拙著でようやく阪大大学院国際公共政策研究科から学位を得ましたが、その際副査をしていただいたのは、上智で同期だった星野俊也先生で、大変お世話になりました。
カナダの政治・経済・外交にご関心のある方は、是非拙著をお読みいただき、コメントなどをください。

e-mail: sakurada@kwansei.ac.jp

櫻田 大造 (昭和59年卒)

■古い旅館の女性として、すっかり英語離れしておりましたが、このご時勢でインターネットを勉強することになり、ホームページを四苦八苦して立ち上げました。国内よりも海外からの反応が早くて驚きました。私のさびついた英語にブラシをかける位では間に合いません。強力な“さび落とし”はないものでしょうか。

e-mail: yoyokaku@ matsuronet.ne.jp
URL: http://www.matsuronet.ne.jp/yoyokaku/

大河内 (旧姓 山口) はるみ (昭和42年卒)

■本年4月中村学園大学流通科学部教授に就任いたしました。これまで培って参りました様々な経験を生かし、今後はグローバル化した社会を担う次の世代の育成と研究に力を注いで参りたいと思っております。
数年前ジミー・カーター元米国大統領より頂戴いたしました同大統領著の絵本の日本語版を企画、翻訳し、5月に『海のかいじゅうスヌーグル』として石風社より出版いたします。とても心温まる絵本です。お手に取って頂けましたら幸いです。

飼牛 (旧姓 倉恒) 万里 (昭和45年卒)

■1999年1月、ロンドンでの5年間の仕事を終え、帰国。さてこれから日本で今一度原点にかえってと思った矢先、またまたドイツ国ミュンヘン市への出向命令。これだから宮仕えは困りもの。入社以来22年、そのうち10年を米・英で過ごしたのに、早や3回目のお勤めを今度はドイツです。心機一転、ドイツ語とドイツ文化の取得を目指します。今回は単身赴任。無事にお役目ご苦労になる様。

廣瀬 一郎 (昭和53年卒)

■来る21世紀アジア太平洋は平和で安定しているだろうか。それとも、様々な脅威が日本を始め多くの国々の安全を脅かすのだろうか。
本年7月、1年余りにわたるハーバード大学での研究を踏まえて、次の本を出版いたしました。

『21世紀アジア太平洋は安全か ー日米安保と多国間安保ー』(武田出版、1,500円(税別)、本文240ページ)
一度読まれると、日本を取り巻く環境がいかに不安定で、多くの不確実性に満ちているかよくわかると思います。

松井 一彦 (昭和58年卒)

■2年前に外英を卒業して地元神戸に戻り、在阪の準キー局である朝日放送というラジオ・テレビ兼営の放送局に勤めております。入社後すぐにスポーツ部に配属されて,はや3年目。野球のルールもろくにわからなかった私ですが、全社を挙げて阪神タイガースを応援し、夏は一日中高校野球を放送している局とあって、今ではすっかり野球漬けの毎日です。

私は大阪近鉄バファローズとオリックスブルーウェーブの担当記者で、「ニューススステーション」で放送されるスポーツニュースを編集したり、ラジオの中継ディレクターを担当しています。残念ながら英語はたまに外国人選手に質問したり、社内で“英語屋さん”として使われる程度ですが、先日オリックスの宮古島キャンプで新外国人のマルセドという選手と会話していたら、私が幼少の頃住んでいたピッツバーグパイレーツに在籍していたことが判明し、非常に親近感を覚えました。いつの日か、英語をより身近な道具として使うことのできる場に身を置きたいな、と思っております。

高原 彩 (平成10年卒)

■4月より神田に新しく設置された一橋大学国際企業戦略科の教授になりました。それ以前は、8年間青山学院の国際政治経済学部で経営戦略を教えてきました。
今まで7年おきに転職していたのですが、今回は2000年です! 今後ともどうぞよろしくお願いします。

栗田 (旧姓 石倉) 洋子 (昭和46年卒)

■1995年4月からデュッセルドルフ郊外に住み、三井物産の機械販売会社で、ファナックというエキサレントカンパニーの画期的な機械を全欧に販売しています。代理店網もできたので、立ち上げ期の月々火水木金々の猛烈時代は過ぎ、今夏は初めて丸一週間の休暇を取り、南独バイエルン地方のロマンチック街道を中心に家内とドライブしてきました。当地にもソフィア会があり例会もあるようですが、出れば長老になってしまう筈、長老はまるでまだ柄に合わないので出席していない。
会報は賀内が一時帰国した時に持ち帰った。9月2日にはドイツ日本年のフィナーレで神輿が出たり、花火や盆踊りなど華やかに日本を謳うらしいので、日本クラブに協力して家内が夢中になっているので、昔銀座のクラブで覚えたダンスを応用して盆踊りに協力しようと思っている。家から10分のところにゴルフ場があるのは有難い。

堀 亮 (昭和34年卒)

●2000年度定例総会報告●

2000年度SELDAA定例総会が、今年もオール・ソフィアンズ・デーにあわせて5月28日(日)正午より、上智大学1-203教室にて開催されました。(議長： 増田 光 常任委員(昭和59年卒)、書記： 栗村　真 常任委員(平成4年卒))

【活動報告】

蔵田實会長(昭和48年卒)の挨拶の後、以下の通り、前年度の活動報告等が行われました。

1) 大日方聖信副会長(昭和62年卒)より全般的な活動報告

2) 佐藤誠一郎常任委員(昭和53年卒)から、会報編集について

—会報No.28およびNo.29を発行した。

3) 大日方聖信 副会長兼事務局長から、女性セミナーについて

—ほぼ月1回のペースで行なっており、1999年度は計11回開催した。

—今年度から、セミナーの名称を、「SELDAAセミナー」に変更しました。女性だけでなく、男性の参加もお待ちしています。

4) 大日方聖信 副会長兼事務局長から、1999年度決算報告について

【2000年度予算案】

2000年度予算案について、大日方聖信 副会長兼事務局長から説明がありました。審議の結果、2000年度予算案は、満場一致で承認されました。

【名誉会長挨拶】

同窓会名誉会長である、笠島準一英語学科長(昭和48年卒)から、英語学科の現状についてお話がありました。

※1998年度までディベートの授業を、同窓会からの寄付講座として開講していましたが、大学の正式な科目として開講することになったとのことです。

【その他】

1) 2000年度末(2001年3月)に同窓会名簿を発行する予定。

2) 小林康司氏（昭和34年卒）より御挨拶があり、もっと英語学科卒業生として仲間意識を持ち、SELDAA発展の為に皆で協力して欲しいとの発言があった。

【懇親会】

総会終了後、懇親会が行われました。30名ほどが参加し、母校での和やかなひと時を楽しみました。

1999年度　上智大学英語学科同窓会収支決算書

自1999年4月1日　　至　2000年3月31日

収入額　21,750,967円

収支額　3,138,756円

次年度繰越金　18,612,211円

(単位：円)

	科　目	予　算	決　算	備　考
収入	1 繰越金	17,618,758	17,618,758	
	2 会費	2,000,000	4,101,000	
	3 受取利息	10,000	7,809	普通預金・郵便貯金・債券
	3 その他の収入	0	23,400	
	合計	19,628,758	21,750,967	
支出	1 名簿作成積立金	600,000	600,000	
	2 会報費	2,500,000	2,034,774	編集・印刷料 1,013,690（税込み） 郵送料 919,000（切手） 発送料 102,084（封入・局出し）
	3 SELDAAセミナー	230,000	230,000	
	4 交流促進費	200,000	23,100	
	5 総会費	100,000	63,482	資料作成費・懇親会
	6 会議費	100,000	61,242	常任委員会運営費
	7 事務処理費	150,000	126,158	文書代・通信費・振り込み手数料・消耗品費等
	8 予備費	15,748,758	0	
	合計	19,628,758	3,138,756	
			18,612,211	2000年度に繰越

2000年度　上智大学英語学科同窓会予算

自2000年4月1日　　至　2001年3月31日

(単位：円)

	科　目	予　算	備　考
収入	1 繰越金	18,612,211	1999年度より繰越
	2 会費	2,000,000	入会金を含む
	3 受取利息	10,000	普通預金・郵便貯金・債券
	合　計	20,622,211	
支出	1 名簿作成積立金	600,000	2000年度（2001年3月）発行予定
	2 会報費	2,500,000	会報28・29号分
	3 SELDAAセミナー	230,000	講師への謝礼・交通費、会議室利用料
	4 交流促進費	200,000	ホームページ作成等
	5 総会費	100,000	資料作成費・懇親会
	6 会議費	100,000	常任委員会
	7 事務処理費	200,000	文書代・通信費・振込手数料等・消耗品費
	8 予備費	16,692,211	
	合　計	20,622,211	

SELDAA セミナー

SELDAA セミナー (旧女性セミナー)

SELDAAセミナーは、毎月一回、水曜日 10:30～12:00、ソフィアンズ・クラブで開催されております。女性に限らず、男性も含めたより広い層の同窓生の方々の参加を期待しています。

これまでに開催されたセミナー

2000年4月26日(水)

笠島 準一氏 (上智大学外国語学部教授, 英語学科長)

『外国語の習得』

外英の卒業生は英語関係の仕事等に関与している比率が高く、また、外国語や外国の文化に対して非常に強い関心を持っています。そのためか、笠島先生がご用意くださった「刑事コロンボ」のテープ教材には先生の予想以上の反応がありました。この教材は、先生が学生達に実際に使用されているもので、皆でテープを聞きながら英文の空所を埋めて、どのように日本語のせりふに翻訳されているか確かめていきました。いわゆる英文和訳との違いも考えに入れながら活発な意見の交換をしたところ、先生から、学生達より反応が鋭いと「お褒めの言葉(?)」をいただきました。

また、外国語教授法の変遷にも触れられ、Communicative Language Teaching (CLT)における教育場面でのfluencyとaccuracyの両立の難しさなど、非常に教務深い内容でした。

最近の英語学科は、女子学生の比率が大変高くなってきました。また、「英語学科」という名称では具体的にどのような勉強(専攻の内容等)をしているのか受験生には理解されにくいそうです。少子化の流れの中で、多くの大学が抱える悩みは上智でも例外でないということを実感しました。

ほんのひととき学生気分に戻って、コロンボのテープに耳を傾けたセミナーでした。

(昭和48年卒　有馬 多恵子)

2000年5月24日(水)

岡田 仁孝氏 (上智大学比較文化学部教授)

『NGOs and Development』

日本に従来ある経団連や、昨年ノーベル国際平和賞を受賞したフランスの国境なき医師団など、NGO(非政府組織)の活躍がクローズアップされる今日この頃ですが、その現象は、多様化した社会的ニーズということでもあるし、また、歴史的には市民社会の成立以来、社会を構成する一般市民の意思やアイディアによって、ボランティアという形で社会に奉仕する、という経緯があるようです。人道的活動や人権擁護など、必ずしも企業や政府の役割だけでは行き届かない境界的な分野で、その社会的役割を果たしています。多様化する社会の価値観やニーズに応じて、これからもNGOの役割は増大しそうです。

(昭和53年卒　佐藤 誠一郎)

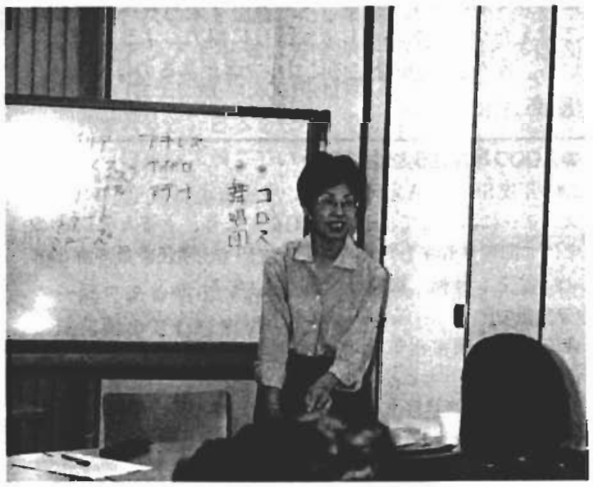
2000年6月28日(水)

吉田 美枝氏 (翻訳家)

『ミレニアムのギリシャ悲劇 —この秋に上演される「グリークス」の台本翻訳について—』

古典でありながら、現代人と何ら変わらない人間の生きざまを、きびきびとした口語を駆使して生き生きと私達の前に出現させて見せる翻訳の冴え。内容の面白さに加えて、シナリオ技術の一端をもうかがうことができ、あっという間の一時間半でした。ビデオやプリントで原作の上演形式との相違を確認したのも興味深いことでした。それにしても、日本、英国に限らず、古典に疎い世代が増えているという指摘には考えさせられました。

(昭和46年卒　落合 彰子)



今回は、SELDAAセミナーに出席された方に、各セミナーの内容をまとめていただきました。また、4月から名称も新しくなり、男性の方々の出席もだんだん増えてきました。その中のお一人に感想を寄せていただきました。
事前の予約は不要です。
どうぞ、皆さま、一度ソフィアンズクラブにお出かけになってみませんか!!

2000年7月12日(水)

Prof. Saadollah Ghaussy (上智大学比較文化学部教授)

『Fundamentalism and its Characteristics (in Christianism, Islam, and Judaism)』

お話の概要は、1)宗教的原理主義の定義、2)原理主義台頭の原因、3)共通する性質、でした。原理主義とは、キリスト教なら聖書、イスラム教ならコーランなどの教典どおりに行動するということで、特に最近では未開発地域で多くなっているようです。これは、何かにすがりたいとか、何か心の拠り所が欲しいというケースが多いと思われます。しかし、そのような原理主義は、当然のことながら、世間一般の常識に反する部分が多く、特に現在では、テロ活動を行なうイスラム原理主義者のケースに見られるような危険思想もあるとのことです。
(昭和53年卒　佐藤 誠一郎)

2000年9月27日(水)

東郷 公徳氏 (上智大学外国語学部英語学科助教授)

『シェイクスピアの生涯』

「シェイクスピアの生涯」と題して、入念に用意された資料をもとに若々しくエネルギッシュに講義は進められました。それもそのはず、先生はケネディ暗殺の年にお生まれだそうで、その時私達は中高生でしたものね。
ともかく、"Shakespeare" という綴りを覚えた頃から、あっという間に彼の没した年齢になってしまいました。最後にビデオで「ヘンリー八世」を見て、当時の劇場や楽屋の様子などの雰囲気を垣間見ました。154あるというソネットを鑑賞しながら、シェイクスピアと言えば、今までは文豪といくイメージを持っていましたが、実に人間的で正直な人とわかり、とても身近に感じられました。
(昭和46年卒　熊野 順子)

2000年10月22日(水)

江畑 謙介氏
(軍事評論家、上智大学理工学部機械工学科 昭和48年卒)

『IT革命と21世紀の戦争』

SELDAAセミナーに出席して

——佐藤 誠一郎 (昭和53年卒)

私はボランティアでSELDAAの常任委員をやっているということもあって、以前から女性セミナーのことは知っていましたが、名称がSELDAAセミナーとなり、また、男性の参加もOKであるということで、5月24日と7月12日のセミナーに出席しました。
たまたま男性は私一人だったのですが、いずれにしても、非常に興味深い内容のお話を聞くことができました。特に、5月のセミナーでは、国境なき医師団が昨年ノーベル国際平和賞を受賞してその人道的活動が世界に評価されたことで、これからも政府だけではカバーしきれない部分でNGOの役割は増えていくだろうと思います。
SELDAAセミナーでは、様々なトピックについて講演を聞くことができます。皆さんも、もしご自分の興味のあるトピックがありましたら、男女を問わず出席されてみてはいかがでしょうか。

SELDAAセミナー　今後の予定

11月22日(水)

Prof. Michael Milward
(上智大学外国語学部英語学科教授)

『Royal Divorce Today』

12月13日(水)

吉田 研作氏
(上智大学外国語学部英語学科教授)

『これからの日本の英語教育』

1月24日(水)

Fr. Donal Doyle
(上智大学外国語学部英語学科教授)

(演題未定)

場所：ソフィアンズ・クラブ
時間：10:30～12:00
会費：3,000円/年 (英語学科卒業生)
　　5,000円/年 (英語学科以外)
　　500円/1回毎

＊事前の予約は不要です。
当日直接会場にお越しください。

■異動通知にご協力ください

ご住所、勤務先などに変更があった方、名簿の誤りを訂正される方、お名前の正しい読み方を知らせてくださる方は、英語学科同窓会事務局またはソフィア会事務局またはソフィア会事務局までお知らせください。また、住所不明の方が多数いらっしゃいます。消息をご存知の方、情報をお寄せください。

2001年(平成13年)3月頃には英語学科同窓会の名簿を発行する予定です。皆様のご協力を是非お願いいたします。

■SELDAAより、募集とお知らせ

◆SELDAAでは、皆様よりこの会報に載せる記事を募集しています。近況や最近感じたことなど、何でも結構です。原稿に写真を添えて、あるいは、同封の葉書にご記入の上、お送りください。

◆この同窓会の常任委員として手伝ってくださる方を募集しております。ボランティアで私達と一緒に会を盛り上げてくださる方、ご連絡お待ちしています。

上記に関するご応募・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。

連絡先: 〒102-8554　東京都千代田区紀尾井町7-1 英語学科事務室気付　上智大学英語学科同窓会事務局

TEL.03-3238-3719　FAX.03-3238-3910
E-mail:seldaa@mve.biglobe.ne.jp

■会費納入のお知らせ

本会の諸活動は、卒業生の皆様からの会費の納入によって賄われています。同窓会活動のより一層の充実と活性化を図るために、ぜひ会費をお支払い下さいますようお願い申しあげます。

会費の支払い方法には、毎年会費を支払う「一般会員」と、一括払いの「終身会員」の2通りがあります。初めて会費をお支払いになる際には入会金もあわせてお支払い願います。金額は下記の通りです。同封の振替用紙にて最寄りの郵便局または銀行よりお支払いください。その際、ソフィア会会員番号を必ずご記入ください。
(なお、振込用紙は、発送の都合上すべての方に送っておりますので、ご了承ください。)

入会金　：1,000円
一般会員：年会費 2,000円(できれば3年分まとめて)
終身会員：一括払い 20,000円

《あなたの会費納入状況》

封筒の宛名ラベルの右上をご覧下さい。

◆「S」のスタンプが押してあるのは、「終身会員」であることを示しています。

◆「未」のスタンプが押してあるのは、今年度の会費が未納になっていることを示します。

5,000人を超える同窓会会員の会費納入状況のチェックには多大な手間と時間がかかります。チェックの時期と納入の時期が重なったなどのために行き違いがあった場合は何卒ご容赦ください。

◆SELDAA常任委員(平成12年10月現在)◆

■名誉会長／笠島準一(昭和48年卒)
■会　　長／蔵田　實(昭和48年卒)
■副会長・事務局長／大日方聖信(昭和62年卒)
■副 会 長／池沢なるみ(昭和48年卒)
■会　　計／内藤恭子(昭和55年卒)
　　寺北ゆかり(昭和61年卒)
■会　　報／佐藤誠一郎(昭和53年卒)
■女性セミナー／安西徳子(昭和49年卒)
■常任委員／石川雅弥(昭和40年卒)　斎藤敬子(昭和48年卒)
　　相馬晶夫(昭和54年卒)　増田　光(昭和59年卒)
　　東郷公徳(昭和62年卒)
■監　　査／井坂由美子(昭和47年卒)　岩村玲子(昭和49年卒)

《編集後記》

●20世紀最後の会報となりました。21世紀もよろしくお願いいたします。(S.S.)

●21世紀など遠い先のことと思っていたのに、もうあと1ヶ月に迫ってきました。これからどのような時代になるのでしょう。(M.)